みんなの広場

Tokorozawa ものしりウォーキング ㉓

航空記念公園Ⅰ
木村・徳田両中尉 銅像記念塔

今回から２回にわたって航空記念公園にまつわる話を紹介します。

航空記念公園は昭和53年、県営の施設として基地跡地に開設されました。総面積50万平方メートルの広さで、毎年春になると園内に植えられた約200本の桜が開花し、大勢の花見客でにぎわいます。

木村・徳田両中尉銅像記念塔

さて、航空記念公園内には所沢の航空の歴史にかかわるいくつかのモニュメントがあります。その一つ、木村・徳田両中尉銅像記念塔は、公園内にある池の北側に建っています。

この記念塔は、大正２年３月28日に日本で最初の航空犠牲者となった木村鈴四郎・徳田金一両中尉の慰霊のため、一周忌に建てられたものです。

木村・徳田両中尉はその日、プレリオ単葉機で所沢から青山練兵場まで飛び、青山から所沢に戻る帰途、所沢飛行場を目前にして突風に襲われ事故に遭いました。操縦していた木村中尉は陸軍砲兵で28歳、同乗していた徳田中尉は陸軍歩兵で29歳という若さでした。墜落した場所は松井村柿の木台で、現在の所沢聖地霊園の南側（下新井）になります。

日本で最初の航空犠牲者と書きましたが、日本人で最初の航空犠牲者は近藤元久という人です。彼はアメリカで日本人として最初に飛行免状を取得し、カリフォルニアでおこなわれた飛行大会の開催中に事故死したものです。所沢での事故の５か月ほど前でした。

ところで、この銅像記念塔は当初墜落地点付近に建てられました。昭和４年に所沢駅前に移され、その際もとの場所に殉職記念碑が建てられました。銅像記念塔はその後、昭和27年に西武園入口に移され、同40年には航空自衛隊入間基地内に移転し、同56年に現在の公園内に移されて今日に至っています。

所沢は、日本で最初の飛行場が開設された航空発祥の地であると同時に、最初の航空犠牲者の地でもあったのです。大正時代に所沢近辺で航空の犠牲となった人は20人でした。当時の事故は、ほとんどが航空技術の未発達によるものでした。

殉職記念碑

▲落ち葉掃きやしいたけ菌打ちなどを体験して、有意義な一日を過ごしました。「雑木林体験教室」。
２月９日㈯／荒幡富士市民の森

▲子どもから大人まで、ピカソやシャガールの絵に見入っていました。「ミューズ美術展」。
２月10日㈰～17日㈰／ミューズ・展示室

▲３月24日の公演成功に向け、一丸となって練習に励んでいます。「所沢レクイエム合唱団」。
２月14日㈭／ミューズ・リハーサル室

▲監督も替わり心機一転。今年こそ優勝を!!多くのファンに囲まれ行われた「ライオンズ激励の集い」。
１月29日㈫／くすのきホール

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集中です▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「忘れ物」です▶子どものころ、忘れ物をして先生に怒られたことありますか▶忘れないようにしていても忘れてしまうことありますよね▶こんなものやあんなものが忘れ物にあったよなど、たくさんの投稿をお待ちしています▶締め切りは３月15日㈮必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

航空公園が一番
東狭山ヶ丘・加藤　富美子

私は、所沢に引っ越して来てから５年が経ちますが、「所沢で一番いいところは？」と聞かれたら「航空公園」と答えます。

子どもが小さかったころは、お弁当やボール、ラジコンカーなどを持って遊びに出かけました。

どの季節でも花がきれいに咲いていてとてもうれしい気分になります。このごろは、写生大会などにも親子で参加させてもらっています。

暖かい季節には、古い友達を誘って、広い草むらでお手製のおにぎりを食べながら語らます。

「駅からこんなに近いのにいい公園があるわね」とみんな喜んでくれます。

航空発祥記念館で飛行機の勉強もできるし、一日のんびり過ごすには最高の場所だと思います。

あこがれていた所沢
北秋津・関　裕枝

母の実家がある所沢は、私にとって身近な街だった。

昔の駅前は、薄暗い感じだったが、銀行ができ、百貨店などの大型店が進出し始め、急速に都会的な街に変わっていった。

多摩東部に住んでいた私は、時間の無いときや仕事帰りなどにはよく所沢駅前の百貨店で買い物したものだった。

池袋や新宿にも電車一本で行けるし、すてきなお店もたくさんある。そんな所沢にあこがれていた私が結婚相手に選んだのは、なんと、所沢のんだった。おまけに、現在の家は母の実家へと続く道の途中にあるのだ。

住民になってみて初めて知らない所沢が見えてきた。まっすぐな道は少ないが、官公庁はそろっているし、オタマジャクシの捕れる公園もある。

これからも、時間をかけて所沢を再発見してみたい。

東川の桜
南永井・井上　みどり

「わあ、きれい」と声が出てしまいます。東川の川沿いの数え切れない桜の木、淡いピンクの花が道を覆います。その下を車で走るとても気持ちがいいです。このときばかりは回り道をします。

しっとりと降る雨の中の桜、いたずらな春風に舞う花びら、りっぱな幹になった古木の桜は見事です。ライトアップされるとまた幻想的な雰囲気になります。川面に浮かぶ花いかだもすてきです。

ときには父母を誘い、夫を誘い花見を楽しみます。私はこの風景が大好きです。

離れがたい魅力
東狭山ヶ丘・川勝　信幸

ダイオキシン問題で一部マスコミから『産廃銀座』などとありがたくない名をちょうだいしている所沢だが、マンションはどんどん建ち、東京のベッドタウンとしての重要性は増すばかりだ。

もっとも私は、地元で栽培されている狭山茶を愛飲し、所沢にいる喜びを日々実感する。狭山茶は全国では扱うところが少ないらしいから。

宅地造成で雑木林も失われつつあるものの、離れがたい魅力があるのが「ところざわ」だ。

発展を願って
三ヶ島・瀧上　英子

所沢市民となって20余年。その間の市の発展には目を見張るばかりです。

私どもが初めて小手指駅北口の新築マンションに転居してきたころ、駅の南側は一望の原っぱで、夏には月見草の可憐な花が一面に咲いていました。

駅も小さな木造で、下り電車を降りると上りの線路を歩いて改札口へ出るのです。今は、南口にもマンションが立ち並び、便利で住み良い一大住宅地となっています。

市の中心部にも高層ビルが林立し、20余年の歳月が思われます。

近郊の美しい自然にも恵まれた所沢。経済的発展だけでなく、市民の心の豊かさをモットーとした、たくましく・美しく・やさしいまち「ところざわ」の発展を願って止みません。

ふる里
荒幡・内野　好美

所沢を５年ほど離れてから戻ったとき、車の窓から高層ビルやマンションが見えて目を見張るばかりでした。

駅前のプロペ通りは、確か愛称募集のときに筆をとった記憶があります。今では、老若男女がにぎやかに行き交い、夜になるとイルミネーションが輝く中、家路を急ぎながら聞いた若者がギターを奏で歌う声を…。そのとき、明るい平和な市民の和を感じました。

この町がますます発展することを期待しています。

私の代名詞
下安松・折橋　洋子

所沢は私の代名詞のようなものです。

父と夫が転勤族ということで、今まで全国津々浦々たくさんの土地で生活してきました。

そして、縁あってこの所沢の地に落ち着き、20年が経ちます。今ではすっかり所沢を愛し、所沢の人となっています。

自己紹介のときや電話での応対のときには、「所沢の折橋でございます…」と言っている。

身内からは、所沢のお母さん、所沢のおばさん、所沢のお姉さん、そして、孫たちからはところざわのおばあちゃんと呼ばれ、自分なりに納得しています。が、私のように所属・資格・肩書のない主婦にとりまして「ところざわ」は唯一存在感のある言葉です。

今日も、便利に重宝に、そして所沢市の宣伝・発展のためにも大いに使わせていただいています。

住めば都
青葉台・寺島　正朝

東京から所沢に移り住んで25年になる。

当初は、飛行機の爆音が気になっていたが、航空発祥の地だからと割り切れるようになった。

関東の中ほどにある所沢は、東京に隣接していて便利なところである。ダイオキシン問題も治まり、地震や風水害の被害が比較的少なくて住み良い町であり、わが人生の終えんの地でもある。

公害の無い、自然に恵まれた文化都市所沢であってほしいと願う。

昔の良さも忘れずに
若狭・近藤　三七雄

狭山ヶ丘に住んで33年、かつて狭山ヶ丘駅は単線の小さな駅だった。小手指駅も無く、そこまでは見渡す限りの雑木林と野原だった。

しかも、道路は砂利道で雨が降るとぬかるんで困った。それが今日の発展である。ほんとに便利な時代になった。

しかし、私はそのおかげで失ったものもたくさん見てきた。その最たるものが、豊かな自然と素朴な親切とのどかな自由である。

発展とは、そのぐらいの犠牲はやむを得ぬところがあるようだが、ただそれが「ここからここまでは俺のものだ」という利害と猜疑心だけに変化していることには深い危惧を感じる。昔の良さも忘れてはいけないと思う。

はつらつところ野老っ子

泉山　忠彦さん
（青葉台在住）

生活の基本は、自分たちが気持ちいいこと

人・自然・環境に配慮して造られた建築物や行為など、地球や人に優しい都市環境の実現に貢献したもののうち優れたものを表彰する第６回「エコシティところざわ賞」に選ばれた泉山忠彦さんを紹介します。

泉山さんは、子どもが大学を卒業するときは自立するものと決めて、夫婦で生活するための「日当たりの良い土地」を探していました。自転車が趣味でよく奥多摩の方などへ出かけるので、あまり都心の方の土地は探さなかったそうです。意外なことに求めていた土地は、以前の家のすぐそばで見つかりました。

「今を楽しむため、またこれからの生活の器を考えたらこの形（家）になりました。」

建築家とよく相談し、自分たちがやりたいこと、自分たちが気持ちいいことを一つ一つ揃え、逆にいらないものはすべてはずし、シンプルにしたら今回の受賞作品である家ができあがりました。最初から「環境にやさしい家」などとは考えず、自分たちのために造ったら結果がついてきたそうです。

泉山さんのお宅は、太陽熱で空気を暖め、暖房や給湯に利用できるOMソーラーシステムを取り入れています。「コンクリート打ち放しの建物なのに、真冬でも全然寒くありません。居間・洗面・浴室すべてが同じ暖かさです」と忠彦さん。

２階の畑で…

また、２階にはコンクリートで枠を作った畑があります。忠彦さんは元来土いじりが好きだったようで、無農薬で野菜を栽培しています。その畑にまく水は、雨水タンク（約500リットル）の水でほとんどまかなっているとのこと。

「この季節はちょっとさびしいですが、夏には野菜がいっぱい採れるんですよ」と夫人の恵美子さんが話してくれました。そして、食べきれないほど野菜が採れると、創作料理に励むそうです。

「家ができてから土・日曜日の休みには、１日は自転車で楽しみ、もう１日は畑で土いじりを楽しむようになりました」とうれしそうに語っていただきました。

誰でもエッセイ
テーマ〝ところざわ〟

次回のテーマは「忘れ物」です

ご覧ください

テレビ埼玉
●所沢リポート
3月29日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映
『エコシティところざわ』
シティケーブルネット
●広報ところざわ テレビ情報館
3月21日㈮～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります▽ダイニングテーブル▽ダブルベッド▽ビデオデッキ▽ジュニアカーシート▽ベビーバス▽調乳ポット▽幼児用ダイニングチェア▽絵画用木製パネル▽ゴルフセット▽生け花用花器▽七輪▽健康器具▽イラスト用パステル50色・ソフトパステル150色・アクリルカラー37色
●求めます▽ソファー▽室内用ブランコ▽ジャングルジム▽砂場用舟▽ジュニア用硬式テニスラケット▽柔道着（小学校低学年用）▽幼児用自転車▽子ども用自転車▽囲碁セット▽ノートパソコン▽キーボード
受付方法　電話による先着順で紹介します。利用者は所沢市民に限ります。
休館日　月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎941-0008）